曰、正德ノ比、松山城下町數七十一町、家數千七百三十六軒有、內古町三十町ハ古來ヨリ年貢免許、外輪二十三町、水呑十八町ハ年貢地ナリ、

山之名ヲ改　老武○武翁誤　恐曰、加藤嘉明勝山ニ城ヲ築、松山ノ城ト改シ事、是全ク八幡ヘノ恐ノ爲ニ非ズ、東照大權現天下ヲ治給フ節也、神君ノ御氏松平ト稱ス、依之松ヲ祝テ其比諸城ノ名ヲ改ム、奥州會津城ヲ若松ト改、信州川中島城ヲ松代ト改ム、松山モ亦此心也、

〔愛媛面影四伊豫郡〕郡中

米湊村と吾川村との間に在る市町是なり、此所は山中より出る所の產物伊豫砥をはじめ、砥部の陶器、其外材木、綿砂糖等、すべて此郡中に出して、それより船馬等にて諸國に運輸せり、因て旅客の往來常にたえず、商家も又日々繁榮して、人烟ます〳〵盛なりと云、

〔愛媛面影四喜多郡〕新谷

元和三年、加藤左近大夫貞恭朝臣、大洲六万石を賜はる、其後次男織部正直恭朝臣、新谷一萬石を分知すと俚諺集に見たり、其後代々相續し給へり、南に川あり、北に高山有て、海岸を隔る事二里許、自然要害の地なり、近世蠟紙等の產物多くして頗盛なり、殊に此邊田野開けて、喜多郡中尤豐饒の地なり、○中略

大洲城

舊名大津にて、天正の頃迄、宇都宮遠江守居城なりしを、後に大洲と改めたり、元和三年より加藤侯代々是を領し給へり、前には比志川の流を引て、城郭の遠望殊にめでたし、大津大洲みな比志川によれる名なるべし、○中略

長濱

大洲城四里ばかり海濱なり、比志川の流此處に出て海に入、米穀の出入、魚鹽の運送、すべて此所